



第22回

# 住まい備忘録

日本建築家協会 沖縄支部会員

親泊 仲真 (補アトレ)

プロトタイプでローコスト

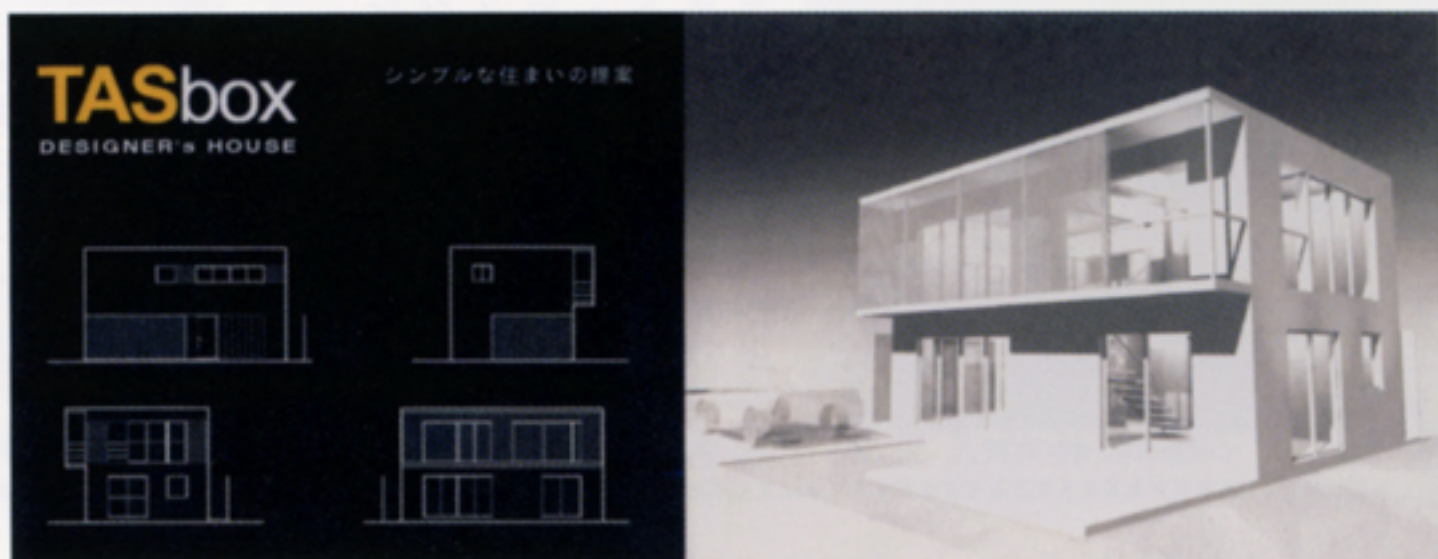
かつて、新しい街の住宅地の分譲推進をボランティアグループで携わったことがあった。適地にマイホームを建てるために土地探しをしている人たちが訪れる。多岐にわたる様々な条件をクリアしながら予算を組み立てていくことで土地+家の数字を現実に換算し合体したイメージを作り上げていく。なにしろ家族全体の生活設計を立てた上

で、土地と家の予算を計上、そのバランスをどの位置でとるのかに関して各々の価値観に回収される。その当時に考えていたのが「プロトタイプ」のハウス(かっこよく言えばデザイナーズハウス)ムタな空間や意匠をブラッシュアップし同じスタイルの空間を創り上げることでコストダウンを図ることだった。それにより、土地を購入しても家まで建てられる。ローン返済を軽減化することで、生活を楽しむことが増えればと考えていた。シンプルなコンクリートのハウスは数年で十数戸をこえた。その後、さらに家へのスケール感とは小さくなり、家でもっと小さくても良いのではないかと思いはじめた。十坪前後でも家族単位で

## シンプルで小さな家に住む

住めるし、かつての沖縄の住宅も同様だったと思うと、何故、広くなったのかなど、反芻しつつ停滞前線である。随分前、大阪の釜ヶ崎に住んでいた頃、近くには三段ベツドの日泊まり貸室が沢山あったのを記憶している。高度成長時代の賑わいのあった街、現在では高齢化した街の風景へと変貌。それでも気になるので、時々今でも立ち寄りたり徘徊したり。線路沿いにはブルーシートや簡易な板材で作られたホームレスの小さなハウスが並んでいる。色々なスタイルで住んでいるように、興味深い。覗かせてもらったこともあるが、何々、合理的。身体性のスケール感は大差なしなので、

参考に。そういえば、自分自身家の中では、さほど移動していないことに気づく。どこまで、家は小さくてよいのかと夢想している。最近、いろんな国の被災地で現地の人たちとコラボレーションしながら簡易ハウスを実現、展開している伴茂の作品に魅了されている。



シンプルな住まいの提案